

医療や小売り子会社6社と連携強化

M・A加速 売上高1.5倍へ

長野テクトロン 持ち株会社設立



長野テクトロンの新社屋の完成予想図



建設が進む長野テクトロンの新社屋。長野市篠ノ井塩崎

長野テクトロングループの傘下に入る企業

社名	事業内容
長野テクトロン(長野市)	入力装置・表示パネル製造
フィーリックス(東京)	POSシステムの開発、販売
医療情報基盤(東京)	病院向けサイネージシステム運営
YKR medical labo(名古屋市)	病院向け遠隔画像診断サービス
ライブネス(東京)	オフィス向けシステム、サイネージ
オイシーク(東京)	オフィス向けフードデリバリー
ハヤブサ技研(東京)	高速回転脱水機などの製造販売

電子機器向け入力装置製造などの長野テクトロン(長野市)は1日、持ち株会社の「長野テクトロングループ」(同)を設立した。医療や小売り関連などの子会社6社と連携を強化しつつ、M&A(企業の合併・買収)をさらに進める狙い。10月末には、長野市篠ノ井塩崎の本社の隣地に建設中の新社屋が稼働予定。グループ全体の売上高を現在の約1.5倍の30億円に引き上げる計画だ。

長野テクトロンは2018年持ち株会社の傘下に入る11年からM&Aを積極的に展開している。小売店のPOS(販売時点情報管理)システムの開発・販売を手がけるフィーリックス(東京)を皮切りに、医療や小売りなどの企業を買収。現在、完全子会社が4社、ほかに連結子会社が2社ある。

長野テクトロングループの社長は、長野テクトロンの柳沢由英社長が兼務する。同社を含め全7社が子会社として

新社屋は鉄骨3階建てで、延べ床面積千平方メートル。約3億円を投じた。1階が工場で、セルフレジのタッチパネルや工作機械の入力装置などを製造。セルフレジの普及などで需要が拡大しており、生産能

力を現在の1.3倍に引き上げる。

2、3階はオフィス。病院向けの遠隔画像診断事業を手がける子会社のYKR medical labo(ワイケール・メディア)だ。

柳沢社長は、M&Aによるシステムを活用する。同事業はこれまで一部に他社製のシステムを使っていたが、オフィス向けシステムの子会社、ライブネス(東京)が開発に加わることで、グループ内で事業を完結させる計画とした。

「強化され、提供できる製品やサービスの幅が広がっていると強調。今回の持ち株会社設立に伴い、さらにM&Aを加速させたい」と話した。25年1月期の売上高は、長野テクトロン単体で20億円、グループ全体で30億円を目指すとした。